

“被害者目線で対策を行う重要性” ～防犯対策で資産価値を高める～

防犯アドバイザー
京師美佳セキュア・アーキテクト 代表 京師 美佳



「どうしてテレビタレントと防犯の専門家を両立されているんですか?」と、ご質問頂く事が良くあります。答えは単純で知られていないのは存在しないのと同じだと考えているからです。



昔からトラブルや事件に巻き込まれた被害者に「どこに相談すれば良いのかわからなかった」と言われます。私も、防犯の仕事始める前の会社員時代に事件の被害者となりましたが、全く相談する場所がわかりませんでした。空き巣やストーカーなど様々な被害に遭いどんな対策をすれば良いのかもわからないのは、被害者としてはそれほど不安な事はありません。

私の家族は父が元警察署長であったり、姉や義理の兄も刑事や署長と警察官で、普通の会社員よりは事件などの情報に触れていたかもしれませんが。それでも被害者として相談する場所、その後同じ目に遭わない為の対策を行う方法がわかりませんでした。

それは防犯の業界特有の事情も関係しているかもしれません。昔からですが、この業界は縦割りで連携されていません。鍵、ガラス、防犯カメラ、警備システム、身辺警護、探偵など様々なものが横並びで存在しています。被害者や消費者からすると、それはとても不便な事です。

例えばガラスを割られて空き巣に入られた家は侵入者に対して不安を感じ、防犯対策を強化したいと考えます。玄関の鍵やガラス面、そして警備システムを設置したいなど希望もあります。これら全て自分で探して其々の説明を聞き、自分でチョイスしていかなければなりません。面倒ですし時間もかかります。先ず、どこに連絡すれば良いのかもわからないかもしれません。

しかし、私の様な防犯プロデュース出来る人間に相談すれば、鍵も窓も防犯カメラもセンサーライトや警備システムなども全て予算に合わせて、提案や業者の紹介もしてくれるとなれば、楽かと思います。

メディアにでるメリットとしては、そんな人間がいるよ、相談窓口もあるよと知って頂くのも一つです。手口を話し対策をお伝えしていく事で、視聴者が其々自分でホームセンターなどで防犯グッズを購入し、対策を行って頂けるという事もあります。DIYなども流行っている所以で自分でしたい方もいると思います。また、防犯設計や防犯診断、防犯アドバイスなどこれまで専門家

として行っている防犯のお仕事を知って頂くきっかけともなります。

デメリットとしては顔を出して発信しているので公人としての扱いを受ける事や、人とトラブルになっていなくてもSNSでの誹謗中傷など所謂炎上で、攻撃される事があります。メンタルの弱い方にはつとまりません。私自身もこの20年間で鈍感力が増したように思います。とにかく、知って頂くという事は私にとっての防犯対策の啓蒙活動としてはとても大切な事なのです。

更に、わかりやすく伝える事にも心がけています。例えば、防犯対策で大切な事に、犯罪者を近づけない環境をつくるという犯罪機会論があります。

【犯罪機会論】

犯行の機会を与えないことによって犯罪を未然に防ぐ事です。その反対の理論としてあるのが、犯罪原因論。犯罪原因論で指摘するような心や身辺に問題を抱えた人がいても、その人の目の前に、犯罪を行うのに都合のよい状況(犯罪の機会)がなければ、犯罪は実行されないというのが、犯罪機会論の考え方です。

■犯罪機会論の中の3つの特性

- 抵抗性…開口部の強化
- 領域性…囲うなどして縄張り意識をみせる
- 監視性…人の目を集める

【犯罪原因論】

犯罪者の心や境遇(身辺・環境)に犯罪の原因を求め、それを元から無くすことによって犯罪を防止しよう、はなから起こさせない!というのが犯罪原因論の考え方です。

被害に遭いにくい環境を作ろうとする犯罪機会論は「守り」の犯罪学であり、反して、犯罪者が抱える原因や根本を取り除こうとする犯罪原因論は「攻め」の

犯罪学です。しかし現実的には、全ての人の心や環境まで操作したり、関わって変える事は難しい。だからこそ、犯罪機会論で被害に遭いにくい環境をつくり、犯罪被害を防ぐのが現実的な対策になると個人的には考えています。

こんな事を根底に考えながら相談者にとって一番良い対策を考える。そしていかにわかりやすく伝えるか?が必要になってきます。なぜなら犯罪機会論などと一般の方に話しても、防犯対策に興味がある人しか意味もわからないからです。そこで、いかにわかりやすく伝えるかで考え、良く啓蒙活動で使うのが「犯罪者が嫌がる4原則」という言葉です。

【犯罪者が嫌がる4原則(音・光・時間・人の目)】

- 音……窓ガラスや玄関が壊されたり、割られたり、開けられたら警報が鳴る物の設置
- 光……センサーライトなどの設置
- 時間……補助錠や防犯ガラス、防犯フィルム、面格子などで開口部の強化をするなど
- 人の目…防犯ステッカーや防犯カメラの設置、花壇やベンチの設置で人の目を集めるなど

これら犯罪者が嫌がる四原則にそって防犯グッズを買ったり、設置するとより効果的な対策を行う事が出来るという風にお伝えしています。内容は先程の犯罪機会論と同じですが、より一般の方が理解できる内容で被害者目線でお伝えしています。

ともすれば技術者やプロがやりがちなのが、この部分でのミスです。自分が知っていても相手が知らない可能性もあります。ですが自分が知っているからそのままの知識で相手に合わせずに説明や会話を続ける。これでは理解できませんし、結局対策には繋がりません。常に被害者やユーザー目線で話す必要があります。

昨今、振り込め詐欺グループが変化するなどして広域強盗被害が全国的に拡大しております。在宅中でもガラスを割り侵入してくる手口をみると、開口部の強化は大切です。補助錠や防犯ステッカー、窓アラーム、防犯フィルム、防犯ガラスなどの設置をすすめていくことが必要だと思います。開口部は最後の砦です。ここを突破されるのは命に関わります。是非、それぞれの現場に合った対策を行って頂きたいと思います。

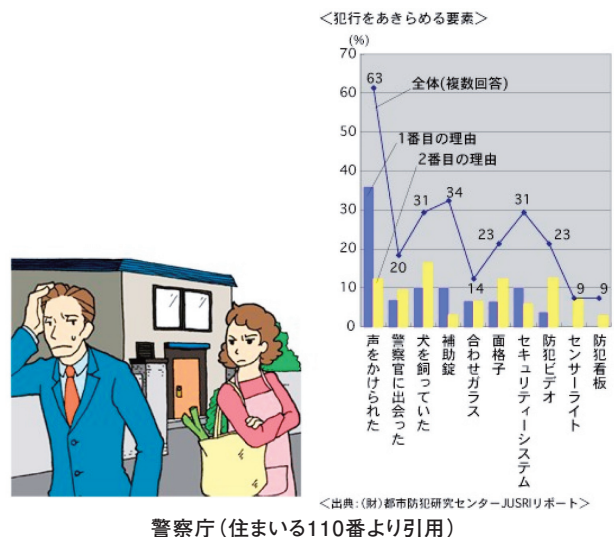
また、人の目を集めるという対策の中で、防犯設備に頼らず出来ることもあります。それが防犯環境設計です。私が分譲マンションや戸建ての防犯プロデュースをする際は、必ず行う事です。住まいが安全になること、これは誰でも望む事です。だからと言って刑務所みたいな物々しい家に住みたいと思っている人もいません。住まいに癒しも求めています。そんな望みにこたえながら安全を確保する事は、私たちプロには出来ます。

例えば、守りたい場所、玄関・ベランダ・駐車場・庭などに綺麗な花壇を設置します。季節のお花が植えられるなどであればなお良いです。そうすると、前を通る人が「綺麗だな」とみてくれます。すると自然と視線が集まって人の目を集める事が可能になり、そんな場所で犯罪者は犯行を行おうとは思わないので効果的な対策になります。

他にも、玄関やマンションの中庭などスペースがある場所に、ベンチをおいて住民や前を通る人に気軽に座ってもらえるようにすると、無料で警備員さんを雇うような環境になります。子供の見守りにも良いですし、そこにも犯罪者は近づきません。

警察庁のデータに犯罪者が犯行を諦める理由のランキングデータがあります。犯罪者の気持ちは犯罪者に聞くのが一番正確な答えが得られるということから出された物でしょう。

そのデータでは、一位が近所の人に見られたというものになっています。下記データからわかるように、いかに近所の人々の目を集めるかが防犯対策では重要になってきます。



こうして防犯設備を設置するだけではなく、設計の工夫で出来る防犯対策もあります。一般の方が知らない防犯対策で、いかに安全安心を住居で確保するかが私たちの仕事であると考えます。

中には安全であれば良いのではないかと、窓全部に鉄格子をすすめている同業者がいて驚愕したことがあります。それをすすめる本人もそんな物々しい家に住みたいと思っているのでしょうか?きっと答えは住みたくないの一択ではないかと思います。

もし、意匠の事も考えてあげるといいう選択肢を残していたなら、その現場では防犯ガラスでもよかったわけです。見た目は何の変化ありませんが、万が一の場合は防犯建物部品であれば5分間犯罪者が侵入してくる時間を稼ぐことができます。5分かかれば諦めるというデータもありますので、未遂で終わることも大いに考えられます。その見た目のデザインまで考えて提案することが、私は必要だと思っています。

もう一つの目としての防犯カメラの設置の仕方にも色々あります。

スタンダードカメラを設置して、こちらの警戒心を伝え威嚇する方法もありますし、ミニドームを設置してデザイン性を重視する設置方法もあります。更には、お寺や料亭なら灯籠の中に隠すなどのカモフラージュする設置方法もあります。

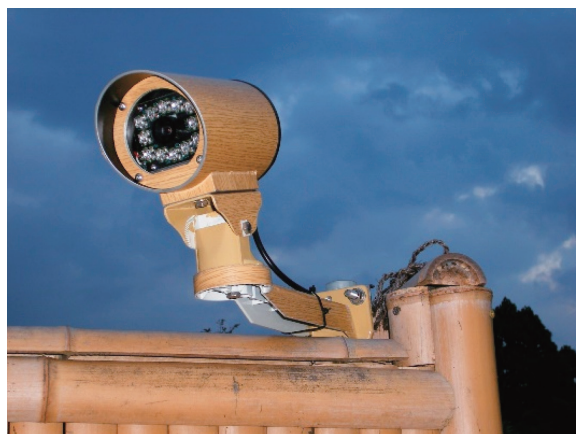
相談者の希望を聞いて、可能な限り要望にこたえる必要があります。一度設置すれば数年はそのままカメラとともに、生活や仕事をする事になりますので、設置する前に拘らなければなりません。我々プロが最も腕とセンスを試される時だと思います。

難しく考える必要はありません。被害者目線、住民目線になって住みたいか?住みたくないか?で考えれば良いのです。おのずと答えは見つかります。ここに一枚のイラストがあります。これは、私がデザイナーズマンションをプロデュースした際に使用したデザイン画です。1階部分にブティックが入っていましたので、そこに防犯カメラとモニターを設置しました。デザインに拘っているデザイナーズマンションや店舗では「意匠を損なうので防犯システムはいらない!保険も入っているし」と考える人も少なくありません。

ですからこの現場では、店内の内装に合わせてモニターやカメラのケースなどの色を変えて一体感を出しています。モニターを昼間はCMを流し夜は監視映像に切り替えることで、広告にも防犯対策にも有効な設置となりました。



他にも料亭で防犯カメラを設置する際に、特別な空間を求めて宿泊に来ているお客様の気持ちを損ないたくないというご希望を頂き、灯籠や柵に疑似化して設置しました。



この様に、スタンダード以外の設置方法が防犯カメラにもあります。以前にルイヴィトンのショールームに銀色の防犯カメラが100台くらい飾られていた時がありましたが、お洒落に防犯対策する事も可能なのです。いえ、寧ろ防犯対策すればお洒落になるのです。

イメージとして安全になればなるほど、威圧的に刑務所みたいな見た目になるという考えを一般的には持たれますが、そこは設置する施工業者や現場のプロデューサー次第ではないかと思います。それだけに私達も常にお洒落に防犯対策を行う事を、忘れてはならないと考えております。

住まいの多くは住民の資産です。見た目が価格（資産状況）に影響が出る場合もあります。防犯対策をすることで、安全だけではなく意匠の価値もあげて、より資産としての価値を高めるお手伝いをする 것도可能なのです。賃貸物件のオーナーなどには資産価値を高め、空き室対策にもなる防犯対策の強化をすすめるのは資産運用のお手伝いにもなります。

私たち防犯のプロが行うのは単に安全な環境をつくるだけではないのです。時に物件の意匠を高めることで、資産価値の向上に繋げることも可能です。様々な事に関してプロデューサーとして関われるのが私たちの仕事です。

最初の話に戻りますが、なぜテレビタレントと防犯の専門家（防犯プロデューサー）としての仕事を両立するのか？それは、これまで話したような私たちに出来る事を、被害に遭われた方や防犯対策において不安に思っている方に、こんな事も出来るんだという事を知ってもらいたいからです。そして気兼ねなく相談出来る人間がいるよという事を知ってもらう為です。



また、男性が多いこの業界で女性で活躍している人間がいるのだと伝われば、後継にも繋がりますし、業界の閉鎖的なイメージも変えていけると考えてます。そして事件の被害者になってからではなく、事件が起きる前にお役に立つ予備防犯の重要性を世の中に伝えていく事で、安全な世の中への一步に繋がると考えております。

今後の展望としては、これまで通り防犯の専門家としてテレビタレントや防犯のプロデュースなどを行いつつ、最近良くて依頼いただく防犯商品や照明など、建物に関わる商品の開発や販促のお手伝い。更にはやはり同じような事が出来る人が増えなければこの世の防犯状況は変わりませんので、後継に繋ぐ指導をしていく事も必要だと考えております。マンションなどで防犯対策されているという認定物件を増やしていくというのも必要ではないかと考えています。

私自身もこの20年間で進化してまいりましたので、今の私だからこそできる事もあります。そんな事を見つけながら常に前を向いて取り組んでいきたいと思います。その際も忘れてはならないのが、初心と被害者目線だと考えております。これからも被害者や被害に遭いやすい女性やお年寄り、子供に寄り添った対策を志に持ち、携わっていきたいと思っております。